

**2022年度 事業報告書**  
2022年4月1日から2023年3月31日まで

特定非営利活動法人 レター・ポスト・フレンド・相談ネットワーク

1 事業実施の方針

2022年度は既存事業のほか、「ひきこもり当事者による高齢家族介護を考える事業」など助成金を活用して事業を行い、居場所支援では15年目を迎えたSANGOの会を「新型コロナ禍に起因するひきこもり対応型オンライン居場所支援拡充事業」として実施したほか、前年度に引き続き札幌市から委託を受け「札幌市ひきこもりに関する集団型支援拠点設置運営業務:よりどころ」を中心に実施し「ピアスタッフによる当事者性を活用したひきこもり支援拠点運営研究事業」では前年度に引き続き札幌近郊の居場所活動のさらなる充実につなげた。

2 事業の実施に関する事項

特定非営利に係る事業

事業名	事業内容と報告	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
外出困難なひきこもり者と家族への相談支援活動事業	ひきこもり当事者や家族からの電話、電子メール、手紙、出張・来談による相談に対応し、必要に応じて他団体機関につなぐなどひきこもり当事者や家族が社会的に孤立しないような実践活動に努めた。2022年度は手紙相談延べ3件（継続相談1件）、電子メールによる相談件数は問い合わせを含め延べ497件。電話による相談件数延べ31件。来談による面接相談は1件、支援者相談1件であった。	通年（年末年始を除く）	事務局	4人	相談総数延べ533人	12
ひきこもり者の家庭へのアウトリーチ支援（訪問支援）事業	2022年度は前年度に引き続き、当事者や家族を対象にして彼らの孤立感を和らげ、他者とゆるくつながり、安心感を届ける目的で手紙によるピアアウトリーチを展開し、ネット環境がなく居場所に来れない当事者等17名に対し月2回の頻度でピアスタッフが作成したオリジナル絵葉書を郵送した。絵葉書は電子メールにはない温かみのある手書きメッセージと言語では伝えきれないイラストや写真を併せ持つことで疲れた心を癒す効果に寄与した。手紙によるピアアウトリーチは返信を求めないことが原則だが、延べ16通の当事者や家族からお礼が寄せられた。手紙によるピアアウトリーチについては、KHJ全国ひきこもり家族会連合会の研修会において当NPOから役員が登壇し、手紙を用いた本人との関わり方について話した（別項目参照）。また、当NPOでピアスタッフを務めている尾澤基氏が12月から月2回、札幌近郊に在住する当事者に対し訪問支援を行った。	通年・概ね毎月1回程度	事務局	3人	当事者(家族)18名	22
人間関係づくりを学習する当事者会「SANGOの会」活動（新型コロナ禍に起因するひきこもり対応型オンライン居場所支援拡充事業／公益財団法人北海道地域活動振興協会令和4年度ボランティア活動支援事業助成金）	概ね35歳を基点にしたひきこもり当事者の集まり「SANGOの会」を初心者例会と通常例会に分けて開催し、ひきこもり当事者が社会的に孤立せず、仲間とながり自分にできることに取り組んだ。通常例会ではとくにプログラムを設けず参加者が話したいことを中心にフリートークとし参加者同士で会話を楽しむことを中心に行った。新型コロナウイルス感染拡大が広がるなか会場である札幌市ボランティア活動センターの使用ができなくなったことから4月～5月は中止となった。初心者例会のみネット会議システムZOOMによるオンライン例会で開催した。2020年度以降開催できなかつた地域めぐり登山などの例会外企画は中止した。2022年9月から新たに助成金事業として「新型コロナ禍に起因するひきこもり対応型オンライン居場所支援拡充事業」を実施した。リアル開催のみならず、新型コロナ禍に対応したリアルとオンラインを併用して開催した。オンライン初心者例会では、遠隔地の札幌市外在住当事者が参加するなどの効果があった。またリアルとオンライン開催がわかるよう新型コロナ禍に対応した案内チラシを300部作成し、関係団体機関や公共施設に配布した。ワンコインボランティアSANGOの会は居場所支援に参加する当事者が札幌市ボランティア活動センターの軽作業を希望する仲間同士で手伝い、彼らの社会参加促進に寄与する目的で行っている。12月21日に開催されたSANGOの会15周年記念オンライン企画イベントでは吉川理事がSANGOの会開始から15年の足跡を振り返り14人の参加者を得た。	通常例会・初心者例会毎月1回実施 (2022年度オンライン初心者例会) 4月27日・6人/5月25日・6人 6月4日・5人/7月2日・3人 8月30日・7人/9月30日・6人 10月28日・6人/11月25日・6人 12月21日・14人※/1月27日・7人 2月24日・3人/3月31日・8人  ※SANGOの会15周年記念オンライン企画イベントとして開催  (2022年度通常例会) 6月4日・5人/7月2日・4人 8月14日・4人/9月3日・5人 10月2日・5人/11月6日・5人 12月11日・7人/1月7日・6人 2月4日・4人/3月4日・5人 (4月～5月の通常例会はコロナ感染拡大予防のため施設使用不可のため中止。)  ワンコインボランティアSANGOの会 毎月2回実施/2人～4人	ボランティア活動センター研修室、事務局、当事者宅	3人	当事者20人(家族)  2022年度実績／通常例会参加者延べ50人・オンライン初心者例会77人  ワンコインボランティアSANGOの会延べ4人	36

事業名	事業内容と報告	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
ひきこもり者とその家族等に役立つ広報出版事業/令和4年度札幌市市民まちづくり活動促進助成金(さぼーとほっと基金)	広報誌「ひきこもり」通信を発行(A4判全8頁6回発行/電子版・紙媒体各100部印刷製本)し、当NPOのHPに公開するとともにネット環境のない世帯や支援団体機関には紙媒体として郵送配布した。表紙のイラストは、昨年度に引き続き、賛助会員でひきこもり経験者の小松英行氏が担当した。2022年度は令和3年度さぼーとほっと基金「ひきこもり当事者による高齢家族介護を考える事業」(別項参照)と連動させて広報出版事業を展開したため同事業で実施した講演会「両親の見送り体験から語る『8050問題対応』」で登壇した大橋史信氏の講演録を2回に渡り掲載したほか、「シリーズひきこもりと高齢家族介護」を4回連載し、ひきこもり当事者や経験者が直面する親の介護問題について掲載した。	隔月1回年6回	事務局など	3人	北海道・札幌市内に住む当事者、家族、支援者、一般人100人	90
ピアスタッフによる当事者性を活用したひきこもり支援拠点運営研究事業(2022年度公益財団法人日本社会福祉弘済会社会福祉助成金事業)	本事業では、ひきこもり支援のプラットフォームづくりを4年以上続けてきた小樽市、江別市、苫小牧市の3地域で支援拠点事業を当事者会と家族会に分けて各5回実施し、ひきこもり支援現場で注目されているひきこもり経験を有するピアスタッフの意義や効果的な活動体系を明らかにすることを旨とし、当事者、家族、支援者、さらに一般市民とのプラットフォーム上での交流を通してどのような相乗効果が形成されるかを検証した。小樽市(O市)は2017年度から継続して実施し、8団体機関の名義後援を受け開催した。参加人数は5回合計で93名。苫小牧市(T市)は2共催10後援団体の協力を得て実施。参加人数は5回合計で122名。江別市(E市)は2019年度から継続実施され、1共催8後援団体機関の協力のもと開催した。参加人数は5回合計で126名。研究事業評価アンケート結果では、3地域とも「とてもよかった」「よかった」という回答率を合わせるとO市86%、T市85.9%、E市97%と全体の8割以上を占める高評価を得た。とりわけE市では9割以上の高い評価を示した。本研究事業のまとめは「ピアスタッフによる当事者性を活用したひきこもり支援拠点運営研究事業報告書」(A4判全32頁モノクロ平綴じ印刷製本300部作成)として刊行し、北海道内の主なるひきこもり当事者団体や家族会、ひきこもり支援関係団体機関に郵送配布を行った。またこれと併行して当NPOの公式ホームページやSNS、会報「ひきこもり」通信などでも案内し必要とされる人たちの手元に幅広く届くよう心掛けた。事業への反響も多く、月刊情報誌「北方ジャーナル」で連載中のルポ「ひきこもり」(2022年10月号、2023年2月号、4月号)に各地で開催された模様が掲載され、8月1日付苫小牧民報社、4日付北海道新聞に「とまとま」についての記事が掲載された。10月27日付北海道新聞小樽後志版に開催5年目を迎えた「居場所ヒュッケ」の記事が掲載された。また10月9日付北海道新聞地方版に「居場所シエスタ」について報道された。	2022年度 居場所ヒュッケ(第3木曜日) 8月18日,9月15日,10月20日,11月17日,12月15日  事前会議 6月3日(会場開催) 事後会議 2023年1月31日(現地+オンライン開催)  居場所とまとま(第1木曜日) 8月4日,9月1日,10月6日,11月10日,12月1日  事前会議 7月15日 事後会議 2023年2月9日(全てオンライン会議)  居場所シエスタ(水・木・土曜日) 8月31日,9月22日,10月22日,11月30日,12月22日  事前会議 5月25日 中間会議11月25日 事後会議 2023年2月9日(全てオンライン会議)	小樽市生涯学習プラザレピオ  苫小牧市市民活動センター  江別市総合社会福祉センター	6人	北海道内に住む当事者、家族、支援者など延べ341人	659
ひきこもり当事者による高齢家族介護を考える事業/令和4年度札幌市市民まちづくり活動促進助成金(さぼーとほっと基金)	ひきこもり当事者の中には介護に多くの時間が割かれ、親子関係がさらに悪化することも少なくない。そこで本事業では良好な介護や親子関係がこじれない対処法を学ぶことを目的に、高齢家族介護を考える事業として、8月20日札幌市内の公共施設で「ひきこもり当事者による高齢家族介護を考える事業」を開催した。実施内容は二部構成とし、第一部では、親を介護し死別した経験をもつ一般社団法人生きづらさインクルーシブデザイン工房代表理事の大橋史信氏を講師に迎え、「両親の見送り体験から語る『8050問題対応』」をテーマに学習会を行った。第二部では、小グループに分かれて、ひきこもり当事者と高齢家族介護を考えるセッションを行った。本事業には、遠くは十勝管内からも駆けつけ定員30名を超える47名が参加し大盛況に終えた。諸事情で参加できない当事者や家族に考慮して会報誌に毎月「ひきこもりと高齢家族介護」の特集を組み、広く理解啓発を図った(別項参照)。	2022年8月20日	北海道立道民活動センター「かである2.7」会議室	2人	ひきこもり当事者・家族・支援者など47人	149

事業名	事業内容と報告	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
札幌市ひきこもりに関する集団型支援拠点設置運営業務:居場所「よりどころ」	<p>前年度に引き続き札幌市から業務の委託を受け居場所「よりどころ」を実施した。居場所「よりどころ」は、札幌市内近郊に在住するひきこもり当事者とその家族を対象にして、「札幌市ひきこもり地域支援センター」との協同により「居場所機能」と「相談機能」「学習機能」を併せ持つ地域拠点として、当事者会並びに家族会を月4回開催(うち1回はZOOMを活用したオンライン当事者会、家族会として開催)。本業務にはひきこもり経験を有する1名の運営統括支援員と5名の経験者ピアスタッフに加え3名の家族ピアスタッフの計9名体制で取り組んだ。</p> <p>当事者会の参加人数は計48回で延べ210人。家族会の参加人数は計48回で延べ201人。前年度まで続いた新型コロナウイルス感染予防のため会場使用不可が解除されたこともあり、前年度と比べ当事者会は32人、家族会は28人増加した。家族会で参加者0人が4回、当事者会は1回あったが家族会の1回を除いて全てオンラインでの開催回であった。</p> <p>オフラインでの当事者会では、雑談、ゲームフリーを行うグループ、お一人様で過ごす形で実施した。オンラインでは参加者が少数であったことから特にグループ分けは実施せず世間話から悩み事まで幅広く交流した。</p> <p>オフラインでの家族会では、当事者ピアスタッフが与えられたテーマ「ひきこもり体験を通して見えた今」や「ひきこもり当事者に対する親としての心構え」などをテーマにした話題提供、ひきこもり地域支援センターPSWによるミニ学習講座を継続的に実施し、後半はグループワークを行った。</p> <p>オンラインでは、配置を家族ピアスタッフのみとしたことや参加者が少数であったことから特設テーマ等は設定せず自由に交流できるようにした。</p> <p>新型コロナウイルス感染防止策として参加者には場内マスクを着用のうえ、検温の実施を行うなどの留意事項を遵守してもらった。また感染拡大の予防のため野外での見学を主とした「よりどころ例会企画」は実施しなかった。</p>	<p>2022年度当事者会 毎月第1第3月曜日、第2水曜日 (6月,11月,1月,2月,3月は第1水曜日) 13:30-15:30</p> <p>4月4日,13日,18日,5月2日,11日,16日,6月1日,6日,20日,7月4日,13日,18日,8月1日,10日,15日,9月5日,14日,19日,10月3日,12日,17日,11月2日,7月21日,12月5日,14日,19日,1月4日,9日,23日,2月1日,6日,20日,3月1日,6日,20日</p> <p>オンライン当事者会 毎月第4水曜日(6月,11月,1月,2月,3月は第3水曜日) 13:30-15:30</p> <p>4月27日,5月25日,6月15日,7月27日,8月24日,9月28日,10月26日,11月16日,12月28日,1月18日,2月15日,3月15日</p> <p>2022年度親の会 毎月第2第4月曜日、第1水曜日 (6月,11月,1月,2月,3月は第2水曜日) 13:30-15:30</p> <p>4月6日,11日,25日5月4日,9日,23日,6月8日,13日,27日,7月6日,11日,25日,8月3日,8日,22日,9月7日,12日,26日,10月5日,10日,24日,11月9日,14日,23日,12月7日,12日,26日,1月11日16日,30日,2月8日,13日,27日,3月8日,13日,27日</p> <p>オンライン親の会 毎月第3水曜日(6月,11月,1月,2月,3月は第4水曜日) 13:30-15:30</p> <p>4月20日,5月18日,6月22日,7月20日,8月17日、9月21日,10月19日,11月23日,12月21日,1月25日,2月22日,3月22日</p>	北海道立道民活動センター「か」でる2.7会議室、事務局、	9人	北海道内に住むひきこもり当事者、家族、など述べ411人	2,876
自信回復を狙った一般就労と福祉就労との間に位置する中間的労働(在宅ワーク)を構築する事業	<p>一般就労では不安感や負担が多く、福祉就労ではもの足りない制度の狭間に置かれたひきこもり当事者が、当事者会活動のつながりから社会参加できるような新しい働き方を模索検討していく。2022年度は前年度に引き続き、札幌市ボランティア活動センターが発送するDM便郵送物の袋詰め作業など軽作業を毎月2回実施した。2022年9月からは「ワンコインボランティアSANGOの会」として実施した(別項参照)。また2022年3月22日、札幌市社会福祉協議会からの依頼で資料などの封入作業を行った。作業を担当したのは居場所「よりどころ」の参加者を含むひきこもり経験者5名。予定時間には終了しないほどのハードな作業であったにも関わらず参加者からは「またやってみよう」といった前向きな意見がみられた。</p>	<p>印刷製本作業 センター通年・毎月2回</p> <p>2022年3月22日</p>	札幌市ボランティア活動センター研修室、社会福祉総合センター会議室	毎月3~4人	札幌圏の市民ボランティア及び社会福祉士870人	10

事業名	事業内容と報告	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
<p>広く一般市民にひきこもり等を理解してもらうための講演会・イベント開催事業</p>	<p>ひきこもりの理解啓発のための研修会などに理事者が 出向き、講演研修会講師やパネラーなどを担った(当 NPOのピアスタッフを含む)。(※コロナウイルス感染拡大 予防のためオンラインによるリモート出演) 田中敦理事長/8月6日、7日、KHJ全国ひきこもり家 族会連合会主催で「ピアサポフェスティバル」が高知市 内で開かれ、ピアスタッフの大橋伸和氏と参加。8月25 日～28日、2月14日KHJ全国ひきこもり家族会連合会 主催「ピアサポート養成研修事業&amp;フォローアップ研修 事業」を受講した※、10月18日、中川郡本別町で令和 4年度民生委員児童委員研修会の講師を担当。12月9 日、岐阜県のNPO法人仕事工房ボロボロ主催「ひきこも る人とつながる～手紙・はがきをツールとして～」で基調 講演を行った※。12月4日、厚労省主催ひきこもり Voice station in北海道札幌市で企画モデレーターを 務めた。同イベントにはピアスタッフの大橋氏、尾澤基 氏がパネラーとして登壇した。12月13日、北見市でひ きこもりの事例検討会①、3月2日、同市で事例検討会 ②で講師を担当した。12月16日、苫小牧市でひきこもり 家族会「まゆだまの会」にピアスタッフとり氏と参加し話 題提供した。2月17日、稚内市生活福祉部の主催「地 域で支えるひきこもり」で講師を担当し、ピアスタッフ吉 田英司氏が体験談発表した。2月18日、KHJ全国ひき こもり家族会連合会主催「2022年支援者研修会」にお いて「制度の狭間に陥りやすい本人の望む支援と留意 点」について、2月25日の同研修会では「手紙や電話、 メールやSNSなど非対面や遠隔での支援、その事例」 について講演した※。3月3日、傾聴ボランティア・アク ティブ17主催の講演会の講師を担当した。3月7日、厚 労省推奨令和4年度「ひきこもりサポーター養成研修事 業」が北海道ひきこもり成年相談センターで開催され、 居場所「よりどころ」について説明した※。 10月5日付北海道新聞朝刊「読者の声」の欄で、交通 費の負担が大きいひきこもり当事者に対する意見が掲 載。1月17日付北海道新聞生活暮らし欄「みんなの相 談室」で、ひきこもりで悩む母親に対する相談回答が掲 載。3月14日、選挙を控え政治に求めるコメントが北海 道新聞朝刊に掲載。また情報誌「北方ジャーナル」3月 号に、両親の介護や看取り体験について語った内容が 掲載。 7月4日、札幌市長表彰「福祉ボランティア奨励賞」受賞 式典出席、札幌市長から賞状を授与。7月25日、公益 財団法人社会貢献支援財団より第57回社会貢献者表 彰を受賞し、東京都内で開催された式典に出席、同財 団の会長から賞状を授与。 武田俊基理事/居場所「よりどころ」家族会(6月8日、7 月6日、11日、8月8日、9月7日、10月10日、11月9日、 12月12日、2月8日、2月13日、3月8日開催)で話題提 供し、当事者本人への対応などを家族へ向けて語っ た。3月2日、北見市で開催されたひきこもりの事例検討 会①で話題提供した。 吉川修司理事/情報誌「北方ジャーナル」7月号に連 載中のルポ「ひきこもり」82でインタビュー内容が掲載。 12月21日、「SANGOの会15周年記念オンライン企画 イベント」に登壇した※。 鈴木祐子監事/居場所「よりどころ」家族会(4月11日、 6月13日、11月14日、12月7日開催)で話題提供し、ひ きこもりの子どもを持つ親としての心構えなどについて 語った。9月1日、苫小牧で開かれたピアスタッフによる 当事者性を活用したひきこもり支援拠点運営研究事業 で話題提供。2月25日、KHJ全国ひきこもり家族会連合 会主催「2022年支援者研修会」の分科会「手紙を用い た本人との関わり方の工夫と配慮」について吉川理事と ともに登壇し実践してきた内容を話した※。 そのほか、ピアスタッフの大橋氏は10月5日、ピアスタッ フで全国ひきこもりKHJ家族会連合会北海道「はまな す」の北郷恵美子会長とともに、音更町主催の講演会 「こもりびと(ひきこもり)しゃべり場」に登壇した。2月5 日、ピアスタッフの大橋氏と尾澤氏は東京で開催された 厚生労働省主催の「ひきこもり相談会」において、ひきこ もりで悩む人々に対する相談をオンラインや電話で受 けた。ピアスタッフのとり氏は、3月10日、石狩市サポ ーターセンター相談室まるしえ主催の「中高年のひきこもり 当事者の語りから」で経験談を語った。また、武田理事 を含む5名のピアスタッフは前掲のひきこもり支援拠点 運営研究事業にローテーションを組んで参加し、司会 ならびに話題提供を行った。</p>	<p>(2022年度) 4月11日 6月8日、13日 7月6日、11日 8月6日、7日、8日 8月25～28日、2月14日 9月1日、7日 10月5日、10日、18日 11月9日、14日 12月4日、7日、9日、12日、13日、16日 21日 2月5日、8日、13日、17日、18日、25日 3月2日、3日、7日、8日、10日</p>	<p>札幌市内 の公共施 設のほか 各会場、 事務局</p>	<p>4人</p>	<p>北海道内 外に住む ひきこもり 当事者と 家族、支援 者、一般市 民 延べ 500人</p>	<p>15</p>

事業名	事業内容と報告	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
他団体とのひきこもり支援ネットワークづくり事業	<p>ひきこもりについての意見交換を積極的に行ない、他団体機関との交流を深め、ひきこもりの理解啓発、解決へ向けての方針策定をすすめた。</p> <p>前年度に引き続き2016年度に発足した「北海道ひきこもり当事者連絡協議会」加盟した5つの当事者団体(旭川・NAGI、函館・樹陽のたより、帯広・リカバリスポット、札幌・すなはま、SANGOの会)との連携協力体制を維持した。</p> <p>前掲の「ピアスタッフによる当事者性を活用したひきこもり支援拠点運営研究事業」では昨年度から引き続き地域拠点事業を実施してきた小樽市、江別市、苫小牧市のほか、各地域にプラットフォーム構築のため市役所、保健所、社会福祉協議会、地域若者サポートステーションなど多くの支援団体機関との連携と協力を得て事業を展開した。また同事業では9月2日に江別市で開催された居場所「シエスタ」に全国のひきこもり支援の動向を伝えてきたひきこもり外交官のさえきたいち氏が参加し、当NPOの活動に理解を示しながら側面的に応援をしてもらった。</p> <p>前掲の「ひきこもり当事者による高齢家族介護を考える事業」では赤裸々に両親との死別にあつかわる貴重な体験談を話してくれた一般社団法人生きづらさインクルーシブデザイン工房代表理事の大橋史信氏の協力を得て内容の濃い講演会の開催に至った。</p> <p>前掲のNPO法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会主催「2022年支援者研修会」では、手紙やSNS等を用いた遠隔による支援について当NPOの理事者らが登壇し、当NPOが続けてきた手紙によるアウトリーチ事業に多くの支援者が関心を寄せてもらう機会となった。また同法人が8月6日～7日に高知県で開催した「ピアサポートフェスティバル」では県内外の支援団体機関との交流を深めることができた。</p> <p>前掲の「札幌市ひきこもりに関する集団型支援拠点設置運営業務」居場所「よりどころ」では札幌市ひきこもり地域支援センターから相談担当者が派遣され、当NPOのピアスタッフとともに協働しながら参加者と交流を深めた。「よりどころ」の周知に際しては札幌市のホームページ等に開催日程が掲載された。また前年度から引き続き「ひきこもりサポーター養成協議会」では、KHJ北海道「はまなす」とともに連携関係が続けた。さらに旭川の当事者会NAGIについては毎月1回の定例会に武田俊基理事が司会進行役として現地に赴き支援協力した。2022年度はひきこもり支援に関心を寄せる議員との交流が多かった。4月11日、現参議院議員舟橋利実氏と北海道議会議員の檜垣尚子氏が居場所「よりどころ」を視察。4月22日には事務局を訪ね支援の必要性について田中理事長と話した。9月9日には札幌市議会議員の熊谷誠一氏が事務局を訪れ、制度の狭間に置かれた人々に対するNPO法人支援策について調査が行われた。檜垣氏は北海道議会で代表質問に立ちひきこもりを取り上げ、札幌市議会でもひきこもり支援のあり方が問われ、ひきこもりが政治課題として認識される場面が多くなった。また5月24日、「帯広市議会厚生委員会との意見交換会」が行われ、当NPOからは当事者ピアスタッフを含め6名が参加し、帯広市議会議員からの質疑に応答した。そのほか、7月13日には、函館市の地域包括支援センターの社会福祉士が居場所「よりどころ」を視察するなど、年々居場所活動に関心を寄せる支援団体機関も増え、関心の高さを知ることができた。</p> <p>これまで当NPO主催の講演会で登壇したことのある佛教大学教授の山本耕平氏からの依頼で行ったひきこもり経験者がピアスタッフになったことに関する調査が前年度に引き続き実施され当NPOの理事者やピアスタッフは調査協力に応じた。</p> <p>2018年5月に発足したひきこもりの当事者団体の全国組織「NPO法人Node(ノード)」の代表理事でもある田中理事長は、一般社団法人ひきこもりUX会議(林恭子副理事長)をはじめNodeに加盟するひきこもり当事者団体と情報交換を行った。</p>	2022年4月～2023年3月	北海道立道民活動センター「かいでる2.7」ほか各会場	5人	当事者、家族、実践者、学生、一般市民など延べ100人	15